

飢餓対策ニュース

わたしから始める、世界が変わる



カンボジア・支援地区の子どもたち

世界里親会特集

チャイルドサポーターを求めています

「子どもの教育が未来を変える」

日本国際飢餓対策機構 啓発総主事 田村治郎

途上国で飢餓が原因で命を落とす子どもたちは、5秒に1人、1分間には約12人、1日では19,000人、1年では690万人にも上っています。せっかく生まれてきながら、生きることを拒まれるがごとくの状況を何とか解決したい、と支援者の皆さんと当機構は、長年貧困問題に取り組んできました。教育支援もその重要な働きの一つです。

子どもたちが貧困のゆえに教育を受けられないと、さらに貧困に陥るといふ悪循環が生まれます。文字の読み書きや基礎的な計算すらできないと、社会での様々な知識や情報を得ることが困難になり、仕事にも就けず、さらに貧困に落ちいり、次代の子どもたちも教育を受けられないという負の連鎖が生まれてゆきます。なんとかこの連鎖を断ち切り改善に向かうことが教育支援の目的でもあります。

途上国では男性優位の社会が多く、女性の人権や立場が軽んじられている社会習慣が根深く存在しています。例えば、食事はまず男性が食べ、その残りを女性たちが食べる習慣があるようで、その結果栄養失調になる女性が多くなり、生まれる子どもたちもまた栄養失調となっていきます。それではその地域の貧困はいつまでたっても解決されません。男の子も女の子も、皆が差別なく教育を受ける機会が提供されなければなりません。女の子が教育や職業訓

練を受けることができると、その女の子が母親になった時、自分の子どもに簡単な読み書きや計算を教えることができ、その子どもは就学前から最低限の学力を備えて学校へ行くようになるでしょう。また病気や食事の栄養バランス、予防接種などへの母親の意識が高まり、子どもたちの健康維持につながってゆきます。将来の子どもたちが健康で学校へ行くことができれば、負の連鎖が断ち切れコミュニティの貧困改善にも大きく貢献することとなります。子どもたちへの教育支援が、その個人からいずれはコミュニティ全体の自立へとつながってゆくはず です。

子どもはその国の宝であり、そのコミュニティ、国の将来を担う大きな希望です。それゆえに子どもたちが教育の機会を得て基礎学力を習得するための支援をするにとどまらず、この子どもたちが将来、それぞれの持ち場立場で国を背負って立ち平和を実現し善隣共生を実践するリーダーとして成長してゆくことを応援します。

現在、548人の子どもたちが支援を受ける機会を待ち望んでいます。ぜひあなたもこのような途上国の子どもたちへのサポーターとなって、「受けるよりも、与える方が幸いです。」という、分かち合う喜びの人生に共に加わっていただきたいと願います。

● バレンタインデーの贈り物にどうぞ 寄付金つき「フェアトレードチョコセット」

(飢餓・貧困地域、災害地への募金を含めたセット)



380 円を4 種類 (味はおまかせ) 1,520 円
送料400 円 募金80 円

以上を合計2,000 円でお届けします。

プレゼント用には簡易ラッピングでお届けします
のでお申し込み時にお知らせください。

【問合せ】キングダムビジネス

〒540-0026 大阪市中央区内本町1-4-12NPO ビル402
TEL :06-6755-4877 FAX :06-6755-4888
メール: customer@kbwin-win.org
Web: キングダムビジネスで検索。

● 3月にファシリテータートレーニング

参加者を募集します! (千葉で開催)

「いつか海外で働きたい」「なぜ貧しい国があるの」「開発途上国で活動、となる
とちょっと心配…」という方にお勧めしま
す! 講義とグループワークをします。

日時: 2016年3月14日(月)~3月19日(土)

場所: 東京基督教大学
(千葉県印西市内野 3-301-5-1)

費用: 3万円 (テキスト代含む)

受付: 広島事務所・木村 ☎082-546-9036

● 小西駐在員を民放テレビ番組が紹介

昨年11月27日、朝日放送「世界の村
で発見! こんなところに日本人」
で、ボリビアの小西が取り上
げられました。番組内容につ
いて知りたい方は、大阪事務
所までお問い合わせください。



書き損じはがき、本、CDで国際協力に参加



各事務所では、未投函のはがき (私製以外) を換金し
て海外スタッフ支援に用いさせて頂いています。

【2015年集計】※書き損じ「年賀はがき」受付中

はがき: 210,327 円分の切手に換金。未使用切手:
180,575 円分。国内外の送料軽減に貢献しています。

『本deリンク』で支援する

JIFH 愛知事務所では送られた本やCD・ゲームソフトを換金して、飢
餓・貧困に苦しむ人々の支援に用いさせて頂いています。引越、大掃
除の際にもぜひお送りください。

【2015年実績】66,077 円 (内訳: 本1420 冊、CD216 枚、DVD47 枚)
破れや汚れ、書き込みのある書籍、個人出版、文学全集は換金対象外です。
CDやDVDはケース割れ、ジャケット、歌詞カード不備、海賊版、個人用、カセット
テープやVHSビデオも不可となります。その他、質問は愛知事務所まで。

ハンガーゼロ サポーターを 大募集中!!

4千口突破!
4|0|8|2|口

今すぐ▶▶▶ 各種支援の お申し込み ができます!!

●まず右の必要事項
に記入して、点線の
枠部分を切り取りハ
ガキに貼って、下記
の大阪事務所宛に郵
送、又はこの頁をコ
ピーして、ファクシ
ミリで申し込みくだ
さい。確認のための
必要書類等を送らせ
ていただきます。
お電話でも申し込み
できます。各事務所
までおかけ下さい。

- ☐ ハンガーゼロ・サポーターとして協力します。
毎月 () 口 (1口 1,000 円)
- ☐ チャイルド・サポーター (世界里親会) になり
たいので説明書 (申込書) を送ってください。
- ☐ 海外スタッフ・サポーターとして協力します。
毎月 () 口 (1口 1,000 円)
- ☐ JIFH サポーターとして協力します。
毎月 () 口 (1口 500 円)
- ☐ 郵便自動引落し申込書を送って下さい。
- ☐ その他の銀行自動引落し申込書を送って下さい。

フリガナ 氏名: 男・女

〒

フリガナ 住所:

(電話)

▼申込日: 年 月 日 ▼NL 307 号

FAX・072-920-2155

■発行者 岩橋竜介

■発行所 一般財団法人 日本国際飢餓対策機構



Webサイトアドレス http://www.jifh.org/
eメールアドレス general@jifh.org
フェイスブック https://www.facebook.com/hungerzero

■募金方法 ※各種方法で随時受付中、詳しくは電話やウェブサイトで

●郵便振替 00170-9-68590 / 日本国際飢餓対策機構

●他の金融機関からの自動振替 ●クレジット、デジタルコンビニ



「かざして募金」はスマートフォンからご利用できます。募金は、ソフトバンクモバイル (株) 経由となります。詳しくはウェブサイトをご覧ください。

毎月、飢餓対策ニュースを皆様にお届けするた
めに、ひばり障害者作業所 (八尾市)、生活愛
関西地区のボランティアの皆様が発送作業の協
力を下さっています。

サイクロン被災から1年 「バヌアツ」訪問レポート



特命大使 近藤高史

■ 巨大サイクロン「バム」が直撃

2015年3月、南太平洋史上最大級のサイクロンがバヌアツを直撃。瞬間最大風速90m級の嵐により首都ポートビラでは9割の家屋が被災したと言われています。JIFHでは、現地で活動を続けていたFHIニュージーランドと協力し、早速ローソク、パンの缶詰、医薬品などの緊急支援を行いました。

■ バヌアツの「今」を知る

以来10ヵ月が過ぎ、落ち着きを取り戻したバヌアツの今の様子を確認すると共に、これからの支援のあり方を探るために、当機構の岩橋理事長とパンの缶詰を提供したパン・アキモトの秋元社長（当機構ハンガーゼロ特別大使）ら日本人4名が、2016年1月6日から9日までの4日間、現地を訪問しました。



ヤシ畑が続く海岸線



町の中心にある市場

■ 大統領との面会が実現

1月7日、日本からの一行はバヌアツのロンズデル大統領と面会、サイクロン被害についてのお見舞いと私たちの活動報告をお伝えしたところ「迅速な対応に感謝する」とお礼の言葉を頂きました。またパンの缶詰「救缶鳥」を大統領が試食するひと時もありました。

「JIFHは被災地で緊急支援を行うと共に、より長期的で計画的な地域変革計画（VOC）を通して、地域リーダーの育成や、持続可能なコミュニティ作りを世界各地で応援しています」と岩橋理事長が説



大統領（左端）との面談



パンの缶詰を食べる大統領



バヌアツ共和国

人口 25万人
面積 火山島を含む80の島々（ほぼ新潟県大）
首都 ポートビラ（エフェテ島）
独立 1980年
産業 農業・観光業

明、大統領からは「ぜひバヌアツでもそうした方面での協力を期待する」とのコメントを頂きました。

この面会の様子はNHK大阪の朝のニュース（1/9）でも「日本のNGOがバヌアツで大統領と面会」として映像を交え、紹介されました。

■ 復興が進む村

1月8日、首都ポートビラがあるエフェテ島を車で一周（約3時間）しながら、被災した村々を訪問しました。海岸線にはまだ所々、なぎ倒された樹木や壊れた家屋を見掛けましたが、おおむねこの島では人々の生活は衣食住とも、最低限の必要は満たされている様子でした。



サイクロンの様子を聞く



村のリーダー夫妻（後は小学校と寮）



再建中の教会堂



子豚を育てる

特に訪問した村の一つ「ベサニー教会地区」では、FHIニュージーランドの支援で、被災した教会堂の再建が続けられていましたが、その教会を中心に、小学校、子どもの寮、農場（タロイモ他）、家畜小屋（養豚、養鶏）が肩を寄せ合うように集まって、一つの集落を作っていました。支援で得た子豚を共同で繁殖させ、生活の糧を増やし、学校や教会を自分たちの手で再建している人々の姿に、訪問した私たちが励まされる思いでした。

世界的に異常気象が続く中、いつまた巨大なサイクロンがバヌアツを襲うかもしれませんが、飢餓対策機構では恒久的な社会変革をもたらすきっかけとなる支援を、これからも続けていきたいと願っています。

世界里親会特集

チャイルドサポーターを求めています



今世界では8億3,600万人の人々が飢餓・貧困の中で暮らしています。飢餓に陥っている人の数が最も多いのはアジアで、全体の3分の2を占めています。そして人口に対する飢餓の率が最も高いのは、サハラ以南のアフリカで、およそ4人に1人が栄養不良です。この地域では子どもの半数以上が学校に通えていない状態です。（国連広報センター2015年9月）

貧困を克服するために

世界里親会は、フィリピン、バングラデシュ、カンボジア、ウガンダ、ボリビア各国の飢餓対策機構（FHI）と協力して、またフィリピン、ルワンダ、ケニヤでは現地の協力団体と共に、貧しくて学校に通えない子どもの支援を行っています。

これらの地域ではその国の将来を担う子どもたちが、希望を抱いて歩むことができるようになるために、学用品や制服、給食、定期健診などの機会を提供し、学校に通い続けることをサポートしています。通学を阻む貧困を克服するために、収入向上の取り組み、識字教育や職業訓練また貯蓄グループを作って低金利の貸し出しや共同事業の運営支援を行っています。衛生や栄養の学びも行っています。

心の飢餓からの解放を願いつつ

JIFHは、飢餓・貧困の問題の解決には、その地域の人たちが外からの支援に頼るのではなく、まず自分たちに与えられている潜在能力と可能性に気づいて、「貧しくて何もできない」という心の飢餓から解放されること、そして、自らの力で歩もうとする姿勢を持つことが大切だと考えています。人々の変化が見える形になるまで、およそ10年の時間を要します。

皆様のご協力によってのみ継続的な支援活動が実現します。

ぜひチャイルドサポーターとなって子どもと地域を応援してください！

現在、548名の子どもたちがチャイルドサポーターを待っています！！

世界里親会のしくみ

チャイルド
サポーター

手紙での交流

活動報告

支援金

各国の
協力団体

里親会費4,000円の内訳

- ・現地活動費
- ・学費・学用品の他、家族・地域での研修費、学校設備改善等
- ・国内事務経費

サポーター募集中！

ウェブサイトもしくは最終頁から資料をご請求ください。



貯蓄グループで記帳を学ぶ



子どもクラブの様子

村開発委員会で問題解決

【関係づくり】

FHは2014年から6つの村を含むスバイルー地区で活動をしています。村の開発計画に興味を持っている人々によって作られた、村開発委員会が中心になって月に一度会議が開かれます。FHのスタッフはアドバイザーとして参加しています。そしてFHとリーダーたちとの関係を深め、子どもたちが教育を受けられるように貧困家庭の家計改善や食の安定と安全に取り組むよう励ましています。

一つの村では、新たに7つの貯蓄グループが立ちあがって、地域で最も貧しく弱い立場にいる人々が参加しています。村開発委員会

では前月に行った活動を振り返って課題を分かち合い、みんなで解決方法を考えました。また農業の情報交換会を開催したいと、メンバーから提案がありました。

【13の貯蓄グループが活動】

別の村では毎月の集会で貯蓄グループの活動が積極的に紹介されています。このグループに参加して地域の良いお手本になりましょう、と励ましています。現在13の貯蓄グループが活動していて、資産額は、日本円では773,140円です。メンバーのほとんどが貯蓄グループからの借り入れを利用して、家畜小屋の修理、稲の購入、子豚と鶏の購入などを行っています。また台所の修理や子どもの文具の用意などに利用する人もいます。

FHスタッフは家畜のケアワーカーと良い関係を保っており、地域の人々の生活改善を働きかけています。多くの人が養鶏組合を作るところから始め、養鶏事業を運営、少しずつ参加する家族が増えています。スタッフが家畜のケ

アワーカーと一緒に家庭訪問をして、畜産業を営む人の手本となるように、一緒にがんばろうと励ましました。

【衛生意識が向上】

一つの村では5つの子どもクラブが活動しています。子どもクラブに参加するように子どもたちに声掛けをし、家の周辺をきれいに掃除することや手洗いなどの衛生意識の向上をはかりました。127人（内女の子76人）の参加がありました。別の2つの村では、村開発委員会とボランティアの先生に呼びかけて、青年集会と子どもクラブを行うための準備を始めました。

FHスタッフは困難に直面しても決してあきらめることはせず、村訪問を続けています。またどのスタッフも地域の人々と良い関係を持ち、特に村長や村開発委員会との関係も良好です。そしてスタッフ全員が村の変化を心から期待し献身的に働いています。

【課題】

- ・子どもたちが親の仕事を手伝いに畑や仕事場に行き、学校や村の活動を休むこと
- ・貧困家庭が隣国のタイへ仕事を求めて移住していくことで、子どもたちから教育の機会が奪われること

※このため、家庭訪問の回数を増やして励まし続けています。

サポーターさん ワンボイス

*里子の自筆の手紙は嬉しいものです。心のつながりを実感しております。また世界を見る視野も広がり学ぶことも多くなりました。このような機会に出会うことに感謝します。

進む家計改善

首都ダッカから西へ約200kmのマチュパラ地区では、FHの里親会のプログラムは2013年に始まりました。家族は非常に貧しく、親は家族を支える収入を得るために必死です。家計の事情から子どもを1人しか学校に通わせられない場合、男児が優先されています。一時的な家計の足しとして民間の小額融資（借入）が利用されていますが、高利のため生活は苦しくなる一方でした。

【貯蓄活動から信頼を育む】

FHの貯蓄グループ活動を通じて貯蓄を始める機会が与えられ、人々は週に一度、グループ共通の資産である貯蓄額を増やしていくために、15～30円のお金を持ち寄ります。貯蓄と投資の経験を経て、メンバーが一致し資産が増加していくことやグループ内での人間関係が構築され、貸し出す際に互いに信頼し合えるようになっていきます。

現在37ある貯蓄グループ、3,261人の活動によって、2015年9月の資産額は約498万円になり

ました。これは595人の個人投資と7つのグループの活動に用いられています。またこのグループ単位で健康・法律・価値観についての学びをしています。

【現在の取り組み】

現在176人の子どもにサポーター（里親）が与えられています。FH職員は里子たちと頻繁に交流して健康状態、学校の出席率、子どもクラブ・青年集会への参加率などの確認を行っています。毎月行われる子どもクラブと青年集会など6つのグループで聖書的価値観を元に話をしています。また、若年婚と児童労働の防止についてのセミナーも開きました。

マチュパラでは77人のメンバーからなる7つの地域開発委員会が、月に一度のミーティングを重ね、様々な活動を地域と子どもたちのために行ってきました。健康を保つためにトイレの使用や清潔な水を飲むことなども勧めています。その結果トイレが17、井戸が11設置され、45家族の衛生環境が改善されました。



年に1度の健康診断

また、FHは地域のもっとも貧しいプログラム参加者にミシンを6台寄贈しました。貯蓄グループに参加している1つの家族は約10万円を彼らのグループから借りて農業のために借地をしました。また別のグループの女性は、3万円を借りて夫の仕事のためにリキシャを購入、夫は家族のために毎日リキシャの運転手として働いています。

人々は、開発委員会の励ましを受けながら、生まれながらに備わっている潜在能力を活かすことができるよう取り組んでいます。みんなが現状を改善する努力をしているので、更に変化が起ることを確信しています。

サポーターさん ワンボイス

*里親にさせて頂いて何年でしょうか。前回のカンボジアの子どもはその地域が自立できるようになったとの事で終わりましたが、JIFHの働きを感謝しました。フィリピンの里子は18歳まで本人の手紙で成長を感じることができました。今支援しているバングラデシュの里子のことは毎朝祈っています。大分年をとっていますがもう少し里親を続けます。



保健師による妊婦指導



カサーレ小学校の新校舎

学校菜園で学習意欲向上

【これまでの歩み】

ウガンダでは、東部ナムトゥンバ地区にあるマガダ村とイジランゴビ村の2カ所で2年前から支援活動が行われています。子どもたちに焦点をあてつつ、地域が変わることを期待して共に歩んだ2年間で、地域には15の貯蓄グループが組織され、その取扱高は約134万円になりました。貯蓄グループ活動に参加している人は両地区で約12,000人です。

支援により4教室を建て増し

マガダ村のカサーレ小学校には、教室が足りなくて木の下で勉強していた子どもたちのために

JIFHの支援で4教室が建てられました。両地域では基本的な衛生の知識も学ぶことができました。また18人の子どもが支援を受けてハイスクールに進学しました。

【現在の取り組み】

カイチ小学校で模範的な学校菜園の取り組みが行われています。菜園活動から得た知識が、まだグループに入っていない保護者や学生に共有され活用されています。2015年6月の時点では、トウモロコシを1,400キログラム収穫することができました。学校で必要な分量のうち、かなりの量を補うことができ、朝食に加え昼食もお腹を空かせている子どもたちに提供することができました。カイチ小学校では60%の子どもがトウモロコシを使った昼食を食べることができています。ウガンダの田舎の小学校に通う70%の子どもたちがご飯なしで学校に

通っているのが現状です。食べることで生徒たちの集中力が高まって、学習にいい影響を与えています。

カイチ小学校とカサーレ小学校の生徒が歯科講習を受けました。歯磨き粉とハブラシも提供されました。44人が必要な治療を受けました。口の中を衛生的に保つためには、身近にある手に入りやすい塩や灰で歯磨きをすることも効果があることを学びました。

【課題】

- ・長期間の干ばつが発生し、食べる物の入手が困難になりました。栄養不良の問題、食べることが可能な食品に限りがあることが現状の課題として浮き彫りになりました。
- ・ナムトゥンバは電力不足により通信手段が断たれることが多く、Eメールなどコミュニケーションが困難になります。
- ・子ども自身、また親に教育の必要性が認識されていないため、学校を辞めてしまうケースが依然として多く見られます。教育を受ける価値を理解してもらうように引き続き働きかけていきます。



たくさん収穫されたトウモロコシ

サポーターさん ワンボイス

*教会に里子の手紙や成長記録が届くたび、皆さんに知らせ、喜びを分かち合っています。里子の生活や具体的な支援の様子を知らせていただくことで、里子と里子の国を近くに感じることができます。

学校の取り組みが評判に

2015年後半、私たちは特に子どもたちと家族の健康と栄養面の強化のために活動してきました。ボランティアの訓練、隣人会の結成、包括的な学校作り、家庭訪問などです。同時に、家庭や学校での菜園作りや小動物（ニワトリなど）の飼育もおこなっています。これらの活動はいずれも人々の食生活を改善するためのもので、アサワニ地区にある学校の一つでは蛋白質を補うために魚の養殖を始めました。

【現在の取り組み】

多くの生徒にとって、学校が第2の家となっていることから、私たちは家庭を対象とするのと同様に、学校でも様々な活動を行っています。健康と栄養に関する勉強会を行い、「子どもたちに焦点を当てた地域改革」の一部として1年前に温室栽培が始まりました。この取り組みは、予想以上の反響を呼んでいます。

先日学校を訪問した際、里子の1人であるマウラがこう話してくれました。

「私はこれまで、玉ねぎ、トマト、人参しか知りませんでした。でも今ではホウレン草、カブ、フダン草も知っています。寒い季節でも温室があれば野菜を作れることがわかって、家でもお父さんと一緒に温室を作っています。学校で教わった作物をいろいろ作ってみたいです！」教育省からも見学に来て、温室を見てとても驚き写真をたくさん撮って帰りました。町の

の学校にも良い手本となったようで、今では多くの学校で同様の取り組みが始まっています。

世界里親会は、保健師や教育関係者、地域リーダーとも協力して、子どもたちのために、また地域全体を発展させていくための活動を進めています。人々は世界里親会の存在を喜び、特に新しい温室や子どもたちへの就学支援を



感謝しています。しかし何よりも喜ばれているのは、私たちが一致して人々と共に歩んでいることでしょう。

【教育の大切さに気づいた父親】

里子の1人、小学5年生のリタ（写真⑤）の父親はかつて町へ出稼ぎに行っていました。彼はそこでアルコールに溺れ、家族を顧みなくなりました。母親は農作業と家畜の世話に追われ、リタが羊の世話や勉強する2人の兄の食事の支度を手伝うようになりました。そして母親が胆嚢を患い仕事で

サポーターさん ワンボイス

*日本のほぼ反対側に位置するボリビア。眠る前に息子と、「学校の先生になりたいという里子の夢が叶いますように」と祈る時、地球の裏側にも家族がいる幸せを感じます。私の父は戦争の混乱で5歳で孤児となり、教会の施設で育ちました。里子のために働くことは私のライフワークです。

きなくなったため、リタと兄たちは数カ月間学校を休んで働かなければならなくなりました。世界里親会スタッフは何度も家庭訪問をしてリタの家族を励まし、父親にも会って子どもたちが学校へ戻れるように話をしました。

父親はもう町には行かず、妻と子を大切に生きて生きる決心をしました。子どもたちの教育の大切さにも気付いてくれました。現在、リタは学校に通い世界里親会が行う様々な活動に参加しています。いつか看護師になるのが夢だと話してくれました。

リタの父親は3年前に作られた地域の保育所で働いています。同時に、土地を耕して作物を育て、得られた収入で子どもたちの学用品や服を買っています。リタの母親は病気も治って家畜や子どもたちの世話ができるようになりました。そして子どもたちが学校へ戻ることができた経験を近所の人に話しています。その結果周りの人たちは前よりも子どもたち、特に娘の教育について関心を持つようになりました。